

すき♥スキ♥大好き

No.67

2025年2月11日（火・祝）低学年・高学年例会
長崎ブリックホール・3F 国際会議場 15:00～



ケンタウルス岡田
（岡田健太郎）

ながさき子ども劇場 広報部

〒850-0057 長崎市大黒町 4-26 北村第一ビル 303 号

Tel : 095-825-0533 Fax : 095-825-6151

E-mail:sukisuki@bird.ocn.ne.jp

<http://www.na-kogeki.sakuraweb.com/>

発行 2025年 2月 11日

1. 巻頭企画 エッセイ
2. 例会「オレにロックを歌わせろ！」
3. 事前交流会「オレにロックを歌わせろ！」
4. 九州乳幼児企画まとめ会
5. クリスマス会 🍷
6. 青年出前サンタ 🎅
7. 乳幼児部「クッキー」
8. 劇場新年会、青年送る会
9. 絵本のとびら
10. 編集後記

我が家のゲーム中継

東長崎ブロック 奥村 めぐみ

携帯のアラームと共に私の一日は稼働する
ぼーっとしながら顔を洗い、着替えたらすこしずつギアを上げていく
弁当と朝ごはんを作ったらここから第1라운드의スタート
夫と協力しながらいかに機嫌よく起こすかがポイントだ
機嫌よく起きればラッキー
しかし、朝ごはんが気に入らなければゲームオーバー
バタバタしながら下の子を担いで家を出たら第2라운드의
保育園に入る前の道のりにいくつかトラップがある
そのトラップに引っかからないように息子の気を引くのがポイント
「あ！ニャーニャーだよ！」「ほら虫さんがいる！」
そんな必死な母を横目に楽しい遊具に惹かれる息子
ようやく保育園に送り仕事に向かう
仕事が終わってここからが第3라운드의
保育園と学童へ迎えに行き、帰ると腹が減って猛獣のような雄たけびをあげる子ども達
フィッシュウイナーを頼張らせ時間稼ぐ間にあらかじめ準備していた食材たちを温める
夕食を終えると上の子の宿題の見直し
「ここ間違っているよ」
などと言えばゲームオーバー
ここの声掛けはとても重要
なんとか風呂に入れベットイン
さ～ここからラストステージ
電気を消すと不思議と目が覚める子ども達
歌を歌いだす息子にモグラのように布団に潜り込んで動きだす娘
15分、、、30分、、、まだ寝ない
ここで添い寝してしまうとゲームオーバー
1時間経過しようやくゲームセット



日々とても大変だけど、ゲームのような毎日に面白みを感じ
毎日元気に過ごしてくれる子どもたちに感謝

舞台鑑賞

★2月例会★

ながさき子ども劇場 低学年・高学年合同例会

音楽

オレにロックを歌わせろ!

すばこ
オトナリ舎

2025年2月11日(火・祝) 15:00開演(14:30開場) 長崎ブリックホール・3F 国際会議場



ぼくが歌いたかったのはロックだ!!

そう気づいたオカダ少年は自分の殻から飛び出した。吠えて、踊って、ラップして。
気分がいいからクラシックも。
やりたいことをやるって最高!
みんな一緒に楽しもうぜ!
ピアノ弾き語りの枠を超えた、新感覚ミュージックショー☆

上演時間...1時間

演奏曲目

ロックだけど・・・
子どもから大人までみんなで楽しめます! (^_^)

★フラれたんだぼくは

★オペラ「カルメン」より
闘牛士の歌

★オレにロックを歌わせろ!

ほか

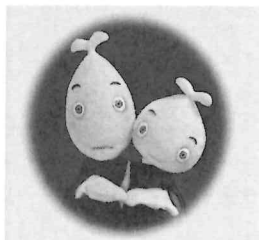
シンガーソングライター、
岡田健太郎がロックシン
ガー・ケンタウルス岡田に
なってお届けします!

Profile

東京芸術大学音楽部声楽科卒。
三児の父。芸大で培った確かな歌唱力と、
大自然が育んだしなやかな感性が同居する
稀有なシンガーソングライター。
生まれ育った田舎に拠点を置き、
サスティナブルな暮らしを満喫
しつつ、そんな日々から歌を紡ぐ。
好きな果物は八朔。
目指せ令和のロックスター!



次回低学年例会



「カボとピノ」
〈人形劇団ココン〉

2025・5・10(土)
15:00開演
メルカつきまちホール

次回高学年例会【地元企画】



「子ども寄席」
〈長崎あざみ落語会〉

2025・4・26(土)
18:30開演
メルカつきまち
ホール



♪事前交流会

2025年1月11日(土)
桜町地域交流センター
14:00~16:00



2月合同例会「オレにロックを歌わせろ！」のちょうど1か月前、1月11日(土)桜町小の地域交流センターに岡田健太郎さんをお招きして事前交流会をしました。幼児7名小学生5名、青年2名、大人14名の計28名の参加がありました。

青年の杏子ちゃんがアイスブレイクを担当し、誕生日で順番に並んだり、じゃんけん早いもの勝ち競争をしたりして動きまわり、体も気持ちもほぐれてからのスタートでした。

初めに岡田さんの真似をしてリズム遊び♪いろいろなリズムを手拍子で真似しました。会場いっばいにみんなの手拍子のリズムが響いて、ワクワク楽しい気持ちになりました。

その後、ピアノに向かうと“しりとり歌”という歌を紹介してくれました。曲の途中で終わった言葉からしりとりで、次の曲を歌っていくという面白いものでした。初めはなかなか声が上がらなかった子どもたちも、「い」のつく言葉～！「た」のつく言葉～！と楽しくなってだんだん言葉が出て、「イカジュース」という想像もできない味の不思議な言葉も飛び出し盛り上がっていきました。自分たちが言った言葉が歌になっていく面白さに子どもも大人も夢中になった時間でした。そして最後にオリジナルの“転校生”という曲を披露してくださいました。アップテンポなこの曲を弾き始めた岡田さんの、とても楽しそうな表情と面白い歌詞が印象的でした。

全体の交流会の後、岡田さんと大人が交流する時間を取りました。現在、滋賀県にお住いの岡田さんは普段は自然いっばいの中で生活されていて3児の父であること。子育て真っ最中で自宅での仕事の大変さや、子どもとも音楽を通しての関わりが深いことも話されました。

参加者からは、コーラスをしていたが楽譜を全くよめないこと、子どもの頃に洋楽が流れている家で育ち影響をうけロックが好きになった話、以前から我が子が自由に作詞作曲をしている話などが出ました。また、今ドラマをやっているという方の質問にも丁寧に答えてアドバイスをくださり、実家が滋賀県という共通点もあり意気投合する場面もありました。自分は声楽科出身でピアノはあまり得意ではないと謙遜するところなど控え目な人柄も感じました。岡田さんは気さくでとても話やすく柔らかい雰囲気を持った方だったので、音楽というキーワードでいろいろな話が広がり、また奥さまとの出会いの話も聞くことができ楽しい交流になりました。

大人が交流している間、子どもたちは、人間知恵の輪やトランプなどをして遊びました。普段はあまり離れることのない幼児がお母さんと離れて遊びに参加し、子どもたちの交流もとても楽しい時間でした。2月の例会本番がとても楽しみになった事前交流会でした！





「いろいろな生き方にふれ、自分のことについても考えてみよう」

ここ数年で乳幼児を持つ親の就労もとても早くなったようです。仕事や家事に追われる毎日を送る乳幼児をもつ親にとっては、子ども劇場の活動に参加することや関わるのが「大変」と感じる人が多いようです。けれど、そんな中だからこそ「話したい」と思っている人もいて感じています。乳幼児の時期しか味わえない体験、自分自身の生き方を考えたり、ありのままの自分を出せる場にしていきたいと考え、乳幼児の活動をつくりあげています。

社会全体としては乳幼児期の親に必要なのは「支援」だと考えられています。行政サービスも「支援」が中心です。子ども劇場は、創立の時から「親も子も共に育つ」を大切にしてきました。乳幼児期の親にとっても「支援」だけが必要だとは思えません。

「子育て」は「親育ち」でもあり、「自分自身がどう生きたいか」は、子どもを「どう育てたいか」につながっています。親自身がそのことを考える機会をつくりたいと考え、魅力的な二人のアーティスト、浅野佳砂音さんと中ムラサトコさんとの出会いの企画が九州各県で取り組まれました。

長崎県内では、県連主催による「トークセッション」が6/7に、佐世保・諫早・ながさき3劇場で乳幼児親子対象のワークショップ「オトのサンポ」が6/8~9に（本誌65号掲載）、そして、ながさきで実行委員会による公演「縄文ビューティー」が11/9に実施されました。

「縄文ビューティー」はサトコさんの実の妹である井上志保さんが脚本を担当。縄文時代から5000年ぶりに目覚めた最高にチャーミングな土偶二人の物語。あのお二人が「土偶！」と聞いて、それだけで「もう面白いこと間違いなし！」とながさき劇場の鑑賞部を中心に大会員に声をかけ実行委員会を取り組みました。100名近くの方が参加くださり、子ども劇場への寄付を残すこともできました。



会場では小さな笑いから渦を巻くように笑いが広がって、サトコさんの歌声に心が温かくなって、佳砂音さんのダンスに見とれて隣の人・前後の人との心の波長が重なっていくのを感じました。いつもの生活の中では家族のことを優先することも多い年代ですが「自分のことも大切に！」と思える1日でした。公演が終わってもお二人の側をなかなか離れ難い方、「楽しかった！元気がでたよ」「誘ってくれてありがとう！」と声を掛けてくれる方、実行委員も観客も心が晴れやかになった1日でした。



九州沖縄地方子ども劇場連



ながさき



長崎県連

1/28には、おおかの取り組みが終わったところで九州全体でのまとめの会がオンラインで開催されました。おおらかで自然体でお互いをリスペクトし合っているお二人との出会いが、各地の人たち・活動と共鳴し、融合・循環していったのを感じました。「自分を解放しかえりみる時間になった」「芸術は人をつなぐと実感した」「私たちが社会を動かしてる」「子ども劇場はいろんな年代の人が対等に話し合えるということがすごい！素敵！」など語られ、子ども劇場の強みと価値を見直す機会にもなりました。

クリスマス会

1. 歌

あわてんぼうのサンタクロース

2. みんなの出し物

① クッキーのわらべうたダンス

② ラーメン体操

④ 森は生きている

③ 東長崎ブロックのヒーローショー

⑤ POWEEEEER

⑥ なぞなぞ

3. ゲーム

⑦ 長縄跳び

① 幸せなら手をたたこう

⑧ 何かしらの予言

② マジックはどこだ

③ じゃんけん列車

④ 勝ち抜きじゃんけん

4. お菓子つかみどり

2024年12月22日(日) 上長崎ふれあいセンター
参加 64名 子ども 30名 大人 22名 スタッフ 12名

前年はながさきフェスでお休みしたので、2年ぶりのクリスマス会！！
参加者は、乳幼児、低学年が多かったのですが、例年通り大いに盛り上がりました。
クッキーのかわいいダンス、フェスからさらにかわいく進化した東長崎ブロックの
ヒーローショーなど、楽しい出し物が出揃いました。

ゲームでは、「いつまでも心は子ども」の大人たちが、ガチで参戦。

リンゴを目指して手加減のない本気のじゃんけん列車でした。

来年は、高学年の皆さんの参加もお待ちしています。

青年出前サンタ

普段高学年の子どもたちと関わることの多い青年の、唯一とも言える低学年向け企画、それが「出前サンタ」というわけで、今年も12月24日に子どもたちにプレゼントをお届け！青年5名、高校生3名の計8名が、2チームに分かれトナカイとサンタに扮して各家庭を巡ります。

- ・サンタにビックリして目を丸くしたまま固まる子
 - ・嬉しいけど恥ずかしい！とモジモジしながら、サンタからのプレゼントを受け取る子
 - ・「あがってどーじょ！」と家の中にまで招き入れようとしてくれる子
 - ・眠くて仕方なかった子
 - ・今回で出前サンタ10回目のベテランな子
- 色んなの表情を見せてくれる子ども達でした(笑)



実はパパママの方が笑顔なこの企画。子どもたちの反応にニヤニヤ。「サンタさんだよ、ほらほら！」と、一緒に喜びながら写真をパシャパシャ。家族総出でサンタと交流する子どもを見守ってニコニコ。そんな様子に、トナカイもサンタもとにかくご機嫌♪今年もとっても素敵な夜になりました。

出前サンタ 実行委員長 (きょーちゃん)

乳幼児部 クッキー

クッキーひろば

毎月1回 日曜日 10:30~14:00
諏訪小学校・学校地域交流センター
※日や会場は事前にご確認ください

*12/22(日)クリスマス会参加

いつものクッキーひろばはお休みして、子ども劇場のクリスマス会に参加。今年のステージの出し物はいつもひろばで歌っているわらべうたと「よいよいよい!!」のダンスを発表しました。

手作りの法被衣装にシフォン布を振り回しながらパパママと一緒に頑張りました。みんなで合わせるのは初めてでしたが自主練の成果は発揮できたかな?

クッキー以外にもダンスや歌、クイズなどたくさんの笑顔と温かい拍手につつまれました。

来年はなにかやってみるかな、と今から考えるのも楽しいかも。



*1/12(日)新聞紙であそぼう!!



新年1回目のクッキーひろばは雪の降る寒い日でした。みんなからクリスマスやお正月の楽しかった話を聞いたあと、今日のメインあそびは田上ブロックの山崎さんが先生になっての新聞紙あそび♪ ハンドルを作ってバスに乗ってGOGO!! 昔懐かしい「紙でっぼう」を作ったり、新聞紙の「瓦割り」をアンパンチで破ったり、ビリビリにした雪の中でかくれんぼしたり大はしゃぎ!! 自分から新聞紙の中に潜り込んで、名前をよばれたら「ばあ〜」を繰り返して楽しんでいました。最後は大きな白いビニール袋に全部の新聞紙を集めて大きな大きな鏡もちの出来上がり~プレゼントには今年の干支のへびのかわいい折り紙も。今年も元気いっぱい遊べますように♡



劇場新年会

2025.02.01 事務所にて

参加者 8名

どうせなら「外に落とさず劇場に」と始めた劇場“飲み会”。1回目は忘年会、2回目となる今年は「新年会」となりました。今回も鈴木さんが準備などを請け負ってくれて、美味しく楽しい会となりました☆ シンプルにきれいに盛られたおかずは、まるでおしゃれなカフェのよう。バゲットに樋上さんが差し入れてくれたクリームチーズのディップをつけると超美味しい～。テーブルで存在感を放っている一升瓶は貴重な国産ワイン。そしてデザートはかぼちゃプリンとフルーツ盛り合わせ。最後はやっぱりコーヒー。お腹いっぱいになりました！それぞれが好きなものを飲みつつ、昭和の話で盛り上がり(世代がわかる笑)大盛況に終わりました。

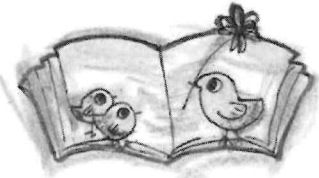
次回はぜひあなたも参加しませんか！(参加費 3,000 円。材料費引いた残りを劇場に寄付☆ 感謝！)



青年送る会 (東長崎ブロック) 2025.2.2 節分 橘ふれあいセンター

大学で長崎へ、会員になって1年という短い期間でしたが、すっかりブロックの一員となった「さえちゃん」が、卒業&就職で長崎を発つことになり、東ブロックで「送る会」をしました。春から小学生になるしゅんくんが準備してくれた「じゃんけん&的当て折り紙鬼ゲッターゲーム」で遊んだあと、木とリスゲームと震源地はどこだゲーム、そして豆の代わりのお菓子まきで鬼退治して、ちょこっとお菓子タイム、さえちゃんからもお菓子をもらい、最後にみんなで寄せ書きした色紙を渡して、記念撮影ハイチーズ！ また会える日を楽しみに、いってらっしゃい！





ひろせさんの 絵本のとびら

みなさんに出会ってほしい絵本、知ってほしい絵本の話を紹介させていただきます**

立春を過ぎても寒い日々が続いています。

2月例会は寒さを吹き飛ばすような音楽例会「オレにロックを歌わせろ!」

内容はちょっと想像が付きませんが、ROCK×CLASSIC×COMEDY!?!とあるくらいですから

おもしろいこと間違いなし!でしょう。楽しみですね〜。

というわけで今回は音楽に関連した絵本をご紹介します。

◆『きょうはマラカスのひ』 クネクネさんのいちにち 樋勝 朋己 文・絵 福音館書店



マラカスが好きな3人組。クネクネさん、パーマさん、ホワホワさん。ある日3人で マラカスの発表会を開くことにしました。それぞれ練習の成果を見せようと精一杯の演奏をします。

「チャッ ウー チャチャ ウー」

マラカスの音を声に出して読むと、なんだか踊り出したくなります。いい感じでふたりの演奏が続いていたのに、クネクネさんはまさかの失敗!さあ、どうする?どうなる?

とにかく不思議な絵本です。マラカスという楽器も独特なら、それをならず3人もかなり個性的。マラカスの音をどう読むか、悩むところですが、とにかく恥ずかしがらずに声に出していくと、だんだん楽しくなってきたり止まらなくなって、なんだかほわっとあたたかな気持ちになります。一度読んだら癖になる。自分を解放してくれる素敵な絵本です。

◆『たいこ どん!』 きくち ちき 作 福音館書店

月刊誌「こどものとも0.1.2」の2021年4月号。

残念ながら今は品切れですが、図書館にはあるので読んでみてください。

「どこどん どこどん どこどこ」と、子どもがたいこをたたいているとネコがきて、いっしょにたたいていると、イヌがきて。どんどんどうぶつがふえて、たいこの音も 大きくなって、さいごは思いっきり「どーん!」

子どもたちと読むと、まるで自分がたたいているみたいに夢中になって、さいごはみんな大満足。あ〜楽しかった!



◆『おばけのコンサート』 たむら しげる 作 福音館書店

小さなおばけがハーモニカをふいていると、森の木のおばけ、水のおばけ、おばけぐも...楽器を持ったいろんなおばけがやってきて、演奏がはじまりまるでコンサートのよう。

「プッポー フォンファー フーフアン キューキコ ホーホー ジャカジャカジャン」

これまた読むのにとまどうのですが、お好きなようにどうぞ。

かわいいおばけたちの演奏を楽しんでくださいね。



<編集後記>

節分も終わり暦では立春なのに今週は全国的に雪の予報。

2月の例会はほとんどランタンフェスティバルのときと重なり寒いことが多いけれど、夜ではなく祝日の15時始まりはうれしい。

例会も ROCK×CLASSIC×COMEDY。ノリノリで身体もポカポカと温まりそうだ。

あともう少し待てば暖かい春がやって来る。

それまで皆さん寒さに負けないように頑張りましょう！



